



※延期となっておりました2/14(木)第1回とのジョイントセミナーです。

初心者向け
参加無料

JKiCセミナー

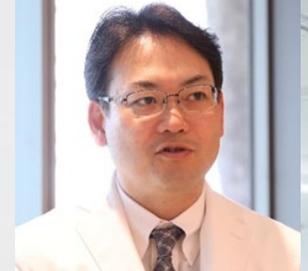
対象:慶應/JSR研究者・一般

臨床検体の利用

18:00~18:30

#1 臨床検体を用いる

臨床研究の概要



西原 広史 特任教授 慶應義塾大学 医学部 腫瘍センター

創薬研究においては、多種多様な臨床検体(生体試料)を用いた臨床研究が必須となる。用いられる検体は、組織、血液、尿、体腔液等、多種多様であり、その採取・処理方法は、検体の種類だけではなく、その後に行われる研究内容によって変わってくるため、検体採取前に明確な計画の立案が重要となる。その他、生体試料を用いる際の重要な注意点として、倫理的側面や情報セキュリティなど、勘案しなければならない事案も多数存在する。本講演においては、生体試料を用いた臨床研究を行うにあたり、事前に知っておくべき事案について、実例を示しつつ紹介する。

18:30~20:00

#2 リアルワールドの ゲノム解析データのセキュリティ



谷嶋 成樹 氏 三菱スペースソフトウェア株式会社

クリニカルシーケンスやバイオバンクの普及に伴い、ゲノム情報を含む臨床データを取り扱う場面が急速に増加している。ヒトゲノムデータの取り扱いにおいては、ヒトゲノム倫理指針のみならず、個人情報保護法への抵触が無きように留意しなければならない。ゲノムデータの取り扱いにおいては、その特性に応じて適切なセキュリティレベルの設定が必要になる。たとえば、がん検体の体細胞変異については、一般的には個人情報としての管理は求められないが、Common SNP情報を多く得た場合は個人情報としての管理が求められることがある。今回は、クリニカルシーケンスを例にとり、研究現場から生成されるデータの性質と要求されるセキュリティレベルについて解説していく。

2019. 2.28 木

18:00~20:00 JKiC1階会議室

主催:JSR・慶應義塾大学医学化学イノベーションセンター

共催:慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

お問合せ先:JKiC産学医連携部門 Mail:jkic-info@adst.keio.ac.jp